

青森版 ITS と NPO の役割

NPO 法人 青森 ITS クラブ

<http://www.a-its.jp/>

1. 地域 ITS の必要性

青森県は、県庁所在都市で全国唯一特別豪雪地帯に指定されている青森市、お城と林檎と日本一の桜祭りで有名な弘前市、そして青森県の念願であった東北新幹線が平成 14 年 12 月に開業した八戸市など、雪、観光、そして交通に関わる課題が多い。特に交通に関しては、雪国特有の問題である吹雪や視界不良による交通障害への対応、生活交通を確保するための除排雪や歩行者の安全確保、そして新幹線開業後の二次交通の確保など、青森県独自の課題が多く、これらを解決するための地域の知恵と工夫が求められている。

2. 青森県内の冬期道路環境

平成 20 年新年早々大きな交通事故のニュースが全国を駆け巡った。

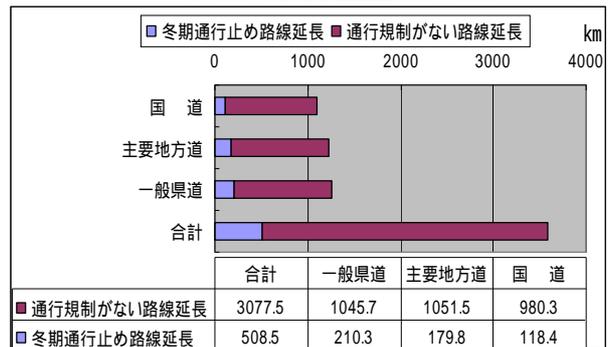
1 月 4 日午前 11 時ごろ、青森市雲谷の国道 103 号で、観光バスが道路左脇 5 メートル下のがけに転落・横転し、1 人が死亡、20 人が重軽傷を負う事故が発生した。事故の原因は青森県内の冬期道路事情に詳しくない関東地方の観光バスドライバーが、猛吹雪による視界不良とタイヤチェーンを装着していなかったことによるタイヤスリップである。事故があった現場は、地元ドライバーがチェーンを装着してもスリップし易いという難所であるが、当日の気象情報や道路環境情報がドライバーに伝わっていれば防げたかもしれない悲しい事故である。積雪寒冷地域においては冬期間日常的に発生していることから、地元ドライバーは毎度の事と心得ていても、観光や業務で来るドライバーが雪道の本当の怖さを実感できるのは、事故が発生して初めてなのだと思う。

このような事故発生を防ぐため、積雪が多く天候が急変しやすい山岳部の峠区間においては、冬

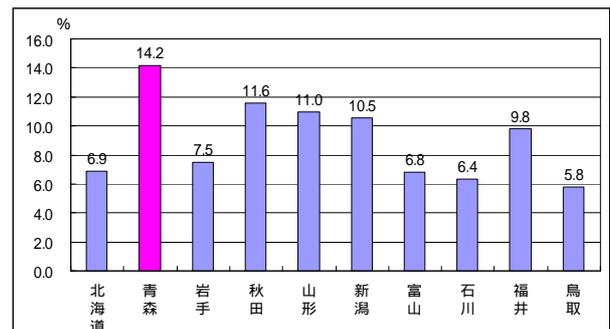
期間の通行止め規制をしている。

冬期間通行止めになる青森県内の国・県道は、国道 6 路線 9 区間、主要地方道 9 路線 12 区間、一般県道 22 路線 22 区間で、県内の国・県道の路線延長の約 14%となる。

青森市 - 八甲田 - 十和田湖等の主要な観光ルートでは、近年冬期間でも交通が確保されているが、山岳部における冬道の安全・安心ドライブのため環境整備が課題となっており、特に雪道に不慣れた観光客等への交通情報の提供は生命にも係る重要なテーマとなっている。



冬期通行止め路線延長と区間割合



資料：道路統計年報

3. 道路交通情報提供の現状

交通情報の提供は、ラジオやテレビで放送される道路の渋滞及び規制情報、道路上に設置されている交通情報板による情報提供が主になっているが、近年ではカーナビや携帯電話の普及により、「何時でも何処でも誰にでも簡単に」交通情報の取得が可能な環境に整備されつつある。

最近では、今までの交通情報等に加え、地域の気象状況（天候や気温など）や道路路面状況等が提供されている。

これらの交通情報の多くは、交通管理者（警察庁、警視庁、道府県警察本部）と道路管理者（国土交通省、各高速道路会社、都道府県）から委託を受けている財団法人日本道路交通情報センター（以下道路交通情報センター）が情報収集及び情報提供を行っており、情報内容は収集時の道路交通の現状など基本的には全国一律となっている。

カーナビや携帯電話等の技術革新が進んでいる中で、「我々一般ドライバーが道路交通情報を見る時はいつなのだろうか?」「こんな情報と一緒に見ることができれば」など、利用者視線に立った道路交通情報の提供が求められている。

4. 青森みち情報

青森みち情報は、行政（国土交通省青森河川国道事務所、青森県）と民間（NPO 法人青森 ITS クラブ 等）が、道路利用者視線に立つ事を心がけて、青森県内の道路交通情報を提供している全国でも珍しい官民一体の取り組みである。

これまでの道路交通情報は先にも述べたとおり、道路交通情報センターが情報収集したものを全国一律に提供しているが、地域独自の交通事情についてはほとんど提供されていなかったと思う。

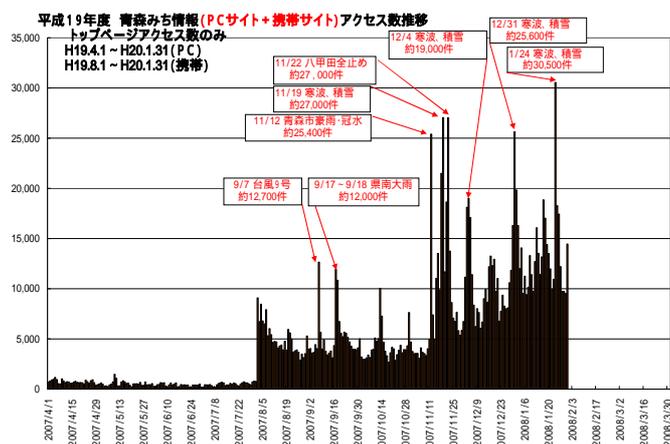
このようなことから、道路利用者が必要としている情報をわかり易く詳細に提供するため、青森みち情報では、地元行政機関による情報収集と民間の知恵と工夫と行動力によって、全国では稀な新しい形の道路交通情報ポータルサイトとして道路交通情報を提供している。

主な情報内容としては、ライブカメラによる道

路映像の公開であり、東日本高速道路会社 4 箇所、国土交通省 24 箇所、青森県 14 箇所、NP016 箇所、計 58 箇所での路面状況（積雪・凍結等）を一目で確認することができる。また、天候の急変や交通事故などによる緊急道路交通規制情報（通行止め）、県内各地の気象情報など、何時でも何処でも簡単に情報収集ができるように PC（パソコン）と携帯電話にて情報提供を行っている。

下図は、最近のアクセス状況であるが、天候が悪化した前後日でのアクセス数の急増、夏期より冬期でのアクセス数が増加する傾向がわかり、道路利用者は天候の悪化などによる道路交通への影響を日常的に必要としていることがわかる。

なお、1月24日のページビューは141,917と非常に多いアクセス数となっている。



< URL >

PC : <http://www.koutsu-aomori.com/>

携帯 : <http://aomori.cc/road/>

携帯サイト画面イメージ



5. 除排雪車運行管理システム

青森市は、全国で唯一の特別豪雪地帯に指定されている県庁所在地である。平成16年度の冬においては、累計降雪量が10mを超え、最大積雪深においては178cmに達し、市民生活に大きな影響を与え、雪の克服こそが市民生活を安全・安心に保つ重要な施策である。

しかしながら、国道、県道、市道の各道路管理者の除排雪体制が異なることにより、各道路管理者の除排雪の連携が取れているとは言い難く、幹線道路から生活道路まで除排雪作業の遅れによる朝夕の交通渋滞が著しい。

このような課題を克服するため、青森 ITS クラブでは、道路管理者に関わらない効率的な除排雪体制を構築し、市民が生活情報として欲している除排雪情報を提供するシステムとして、ITS 技術を活用した除排雪車両の運行管理を提案し、平成19年度より市道一部区間、平成20年2月より国道の一部区間を加えた除排雪情報を提供している。また、来年度においては、青森県管理の道路除排雪情報についても情報提供可能となり、青森市内の主要道路の除排雪情報の提供が本格稼働する。



< URL > PC : <http://atd-gps.jp/>

6. 観光 ITS の創造

東北新幹線新青森駅開業を間近に控えた青森市は、開業までのこれからの期間を有効に活用し、新幹線開業効果を最大限享受できるまちづくりが求められている。特に、新幹線からの二次交通への円滑な誘導、県内の主要観光情報の提供など、交通情報のみ

ならず観光情報の提供を積極的に進めていく必要がある。また、青森市の場合は新幹線駅と中心市街地が約4km離れていることから、新幹線開業後も持続的に中心市街地を活性化していくため、中心市街地へ多くの観光客を誘導する施策が必要となっている。

また、青森県は世界遺産白神山地や八甲田山・十和田湖等、日本でも指折りの観光景勝地を持っている。近年、青森県のように公共交通機関が不便な観光地へのアクセスとして、レンタカーやマイカーを利用する観光客が増えていることや、団体旅行から個人旅行への傾向が増加しているなど、個人客への観光情報やそれに関連した情報提供に対するニーズが増加しており、観光と交通情報を連携する新たなアプリケーションの構築が重要になってきている。

青森 ITS クラブは、これらの点に着目し、道路交通情報と観光情報を同時に提供する「観光 ITS」を創造する必要性を提案している。

7. 青森のキラコンテンツ

平成19年度より青森県を舞台とした観光 ITS 構築のため、国土交通省の「まちナビプロジェクト」事業が実施されている。

この事業は学識経験者・国・県・市及び NPO 法人青森 ITS クラブ等の関係団体から組織された「あおもり ITS 推進研究会」によって実施されており、青森県内の道路・交通・観光・生活情報を、青森に住んでいる人も青森を訪れる人も、自分の目的や好みにあった情報を発見することができる携帯電話版観光 ITS 事業として、利用者視点に立った情報提供に徹底して努めたポータルサイトとして平成19年11月よりサービスを行っている。事業開始3ヶ月でのアクセス件数は日平均1万件とまさしく青森のキラコンテンツになりそうである。

表 - コンテンツ別アクセス件数

青森県情報サイト [DISCOVERY]	11月	12月	1月	合計	1日平均
ニュース・天気	5,467	4,610	5,706	15,783	172
サーベイ青森	8,886	4,861	4,689	18,436	200
あおもり温泉ナビ	6,348	4,628	4,007	14,983	163
青森みち情報	103,356	121,164	166,729	391,249	4,253
あおもり交通情報	124,928	164,071	183,618	472,617	5,137
レジャー・スポーツ	8,987	7,577	3,221	19,785	215
リンク集・検索・コミュニティ	8,894	7,328	6,990	23,212	252
合計	266,866	314,239	374,960	956,065	10,392
平均	8,896	10,137	12,095		

8. NPOとしての使命

NPOという主体に着目したITS推進

青森ITSクラブでは、ITの進歩のスピードへのキャッチアップ、縦割りの行政組織の弊害、官民との連携の必要性といった諸課題をクリアする手法として、NPOという主体に着目したITS推進を全国に提案している。

地域の多数の当事者間を有機的に結び付け、全体の利益のために事業を展開する主体として有力なのがNPOである。ITSのような幅広い行政分野にまたがり、民間の技術力を活用するなど、多くの関係者の連携が必要なテーマについては、NPOを推進母体とすることが有効ではないか。特に、ITの進歩のスピードはきわめて早く、行政の仕組みの中でこれにキャッチアップしながら的確に対応するには、予算編成・執行システムなどの面で限界があるため、より柔軟な組織であるNPOという主体が威力を発揮するのである。

NPOの構成員がITSを本業とする行政・民間の関係者であればなお有効である。ITSは、県行政で言えば、交通行政、情報行政、道路行政、警察行政の4分野にまたがるテーマであり、これを行政として取り組もうとする場合、行政組織内部において窓口の決定や連絡調整（場合によっては国の省庁間の利害関係への配慮）などに時間や手間を要するが、行政の担当者が行政組織を離れ、NPO組織に所属し、NPOの活動目的に向け、協調して取り組むことが可能となる。また、NPO組織には民間メンバーが所属しているため、官民連携の場としてNPOが有効な受け皿となるのである。

新しい社会システムの実現

NPOが行政や地域の企業と連携して、地域の情報化や公共サービスの担い手となることにより、これまで行政主導で進められるのが当然であった地域社会のデザインが住民の手によって進められることとなる。またITSの導入には行政機関の縦割りを超えた連携も不可欠であり、ITS導入はまさに「新しい公共」の創造と新しい社会システムの実現にもつながる。

9. 地域経済の発展

「いつまで(I)たっても(T)すすまない(S)」といわれてきたITSが、「カーナビゲーションシステム」の登場、「道路交通情報通信システム(VICS)」や「ノンストップ自動料金支払いシステム(ETC)」の運用開始に伴い、漸く一般市民に浸透してきた。しかしながら地方都市においてはまだまだ情報格差が大きく、利用したくても利用できない状況であるとか、バスロケーションシステムのようにシステムを導入したくても採算面からバス事業者自ら導入できないとか、利用者の視点に立った整備が行われていないのが現状である。つまり、大都市では事業の収益性から様々なシステムの導入が行われるが、地方都市においては事業の採算性がほとんど見込まれないことから、新しいシステムが開発されても導入に至らないのが現実なのである。

このような情報格差をなくし、大都市にない新鮮で有効な情報や地域に密着した情報を発信し、行政・企業・住民とのパートナーシップによる新たなビジネスモデルを展開しようとしているのが青森ITSクラブである。

豪雪・道路交通事情・緊急医療・中心市街地の衰退といった地域課題の解決を図るには、NPOと行政、地域の企業が連携をして、新しいサービスの提供を展開することが必要である。地域の特性に配慮したITSサービスの開発によって、地域の企業の発展とともに、新たなビジネスの創出、雇用の拡大にもつながり、地域経済活性化の促進をしていきたいと考えている。

10. おわりに

NPOは、国・県・市町村と企業・団体を結んで、如何にチープで使い勝手の良い社会資本整備を実現するためのコネクターのような役割であると考えられる。

利用者にとって最適で有益な社会資本を整備するため、行政機関をはじめ多様な団体との架け橋になって、これまでに行政だけでは実現できなかったことを実現していく原動力と成り得るのがNPOではないだろうか。